

## ルワンダ国月報（2015年6月）

### 主な出来事

#### 【内政】

●24日、カガメ大統領は、ルワカバンバ教育大臣に代えて、ムサフィリ・ルワンダ大学ビジネス・経済学部長を新大臣として任命した。

#### 【外政】

●20日、カレンジ・カラケ国家諜報庁（NISS）長官が公務での英国訪問後、ロンドンの空港にて、1994年のジェノサイドにおける戦争犯罪を理由にスペインの判事が2008年に発出した逮捕状に基づき英警察により逮捕された。

●26日、AU緊急会合がエチオピアのアディス・アベバで開催され、AU平和・安全保障理事会は、カラケ長官の逮捕を非難し、早急且つ無条件の釈放を呼びかけるコミュニケを発出した。

#### 【経済】

●11日、2015/16年度の国家予算案が発表され、全予算は1兆7,680億RWFであり、歳入全体の66%にあたる1兆1,742億RWFは国内歳入とする計画である。他方、外国援助は歳入全体の34%に当たる5,940億RWFである。

※以下はルワンダの英字日刊紙「The New Times」の記事を取り纏めたもの。

#### 【内政】

##### ・教育大臣の交代

24日、首相官邸が発出したステートメントによると、カガメ大統領は、サイラス・ルワカバンバ(Silas Lwakabamba)教育大臣に代えて、パピラス・マリンバ・ムサフィリ(Papias Malimba Musafiri)ルワンダ大学ビジネス・経済学部長を新大臣として任命した。また、アナスターズ・ムレケジ首相の署名したステートメントによると、2009年10月から教育省次官を務めていたシャロン・ハバ(Sharon Haba)次官の代わりに、セレスティン・ンティヴグルズワ(Celestin Ntivuguruzwa)氏が新次官として任命された。(25日)

#### 【外政】

##### ・第10回北部回廊統合プロジェクト（NCIP）サミット

4日～6日まで、第10回北部回廊首脳サミットがカンパラで開催され、ホストのムセベニ・ウガンダ大統領、カガメ大統領、ケニヤッタ・ケニア大統領らが出席し、北部回廊実施局（NCIA）の設立が決まった。(7日)

##### ・世界経済フォーラム・アフリカ会議2016のルワンダ開催

5日、世界経済フォーラム（WEF）は、南アフリカ・ケープ・タウンで開催された2015年サミットの閉会式にて2016年のWEFアフリカ会議をルワンダで開催することを発表した。2014年はナイジェリアで開催されており、両国ともアフリカの中では

大規模の経済国で開催されている中、ルワンダは、経済規模は小さいが最も早い経済成長を遂げている国であるとして選ばれた。(7日)

#### ・日本空手協会（JKA）のルワンダ訪問

12～14日、森俊博JKA専務理事、神野勝同師範（福岡）、笠島圭一同ルクセンブルグ支部長が当地を訪問し、首都キガリのアマホロ・スタジアム内の小体育館と講堂において行われた合宿、昇段審査、支部開設及び虐殺追悼空手大会に参加した。(17日)

#### ・世界難民の日

20日、世界難民の日のイベントがキレヘ郡のマハマ難民キャンプで行われ、今年のテーマは、「難民は特殊な環境に置かれている普通の人々である (Refugees are ordinary people in extraordinary circumstances)」である。ルワンダには現在10万人以上の難民がコンゴ(民)やブルンジから避難してきている。(20日)

#### ・国家諜報庁（NISS）長官の逮捕

(1) カレンジ・カラケ (Karenzi karake) 国家諜報庁 (NISS) 長官が20日、ロンドンの空港にて英警察により逮捕された。背景にはスペインの裁判官が2008年に、元・現ルワンダ解放戦線 (RPF) の40人の将校を1994年のジェノサイドにおける戦争犯罪で告訴していることがあるが、2009年の国連のレポートによると、ルワンダ解放民主勢力 (FDLR) に資金援助をしていたスペインの2つのNGOからフェルナンド・アンドリュー・メレーズ (Fernando Andreu Merelles) スペイン裁判官に対し、RPF構成員を告訴すべく資金供与していたことが発覚している。ムシキワボ外務・協力大臣は23日、ツイッターで、英警察によるカラケ長官の逮捕はジェノサイド支持者による狂気であるとし、逮捕は容認できないと非難した。(24日)

(2) カガメ大統領は、英警察によるカラケ長官の逮捕は、横柄且つ侮辱行為でしかないと怒りを露わにした。英国政府は、カラケ長官の逮捕は法的義務に基づいたものであると主張しているが、大統領は、不当な状況のもとでの第三国での逮捕の正当性に疑問を呈した。また、大統領は、英国はルワンダと強い協力関係を結んでいると述べる当地英国大使のステートメントについても言及し、彼らは我々を友人であり、そのため開発の援助を行うと言うが、彼らは援助をする代わりに我々から尊厳を奪っているのではないかと、援助の代償として我々は侮辱に甘んじなければならないのか、未だ植民地主義のようであるとして西洋諸国を批判した。なお、カラケ長官は、現在100万英ポンドの保釈金を支払い保釈されている。(26日)

(3) 26日、AU緊急会合がエチオピアのアディス・アベバで開催され、その直後にコミュニケが発表された。AU平和・安全保障理事会は、英警察によるカラケ長官の逮捕を非難し、早急且つ無条件で釈放されるべきであると呼びかけた。右コミュニケは、カラケ長官の逮捕は、非アフリカ諸国によるアフリカ諸国に対する国際司法原理のむごい暴力であり、アフリカ大陸の平和と安全をおびやかすものであると述べている。ムシキワボ外務・協力大臣は、逮捕の正当性と（今までに何度もカラケ長官は英国を訪問しているにも

関わらず) 今回の逮捕のタイミングに対して疑問を呈し、国際司法の政治的操作と、非アフリカ諸国による弱いものいじめであると述べた。(28日)

## 【経済】

### ・IMFのPSIレビュー

5月末、第3次IMF政策支援インストルメント(PSI: Policy Support Instrument)レビューが行われ、IMFはルワンダ経済を「申し分ない(satisfactory)」と表し、2015年の経済成長は概ね良好であると称賛した。(1日)

### ・農業エキスポ開催

農業・動物資源省は4日から11日まで、キガリ郊外にて第10回国家農業エキスポを開催する旨発表した。「繁栄のための農業融資(Agriculture Financing for Shared Prosperity)」をテーマに、ケニア、中国、オランダやドイツなど20ヶ国から200以上の展示がされる予定。(3日)

### ・対韓国関係

5日、Han Choong-Sik 韓国国際協力団(KOICA)副総裁は、キガリIPRC(Integrated Polytechnic Regional Center)で実施されたTVEET教員研修センターの起工式において、同センター建設はルワンダ政府とKOICAのパートナーシップの一環である旨、ルワンダ政府は、TVEET分野は投資促進に向けて重要であると考えており、教育への平等なアクセスの向上及び同分野の質の向上は大きな課題である旨述べた。本研修センターの建設費は約36億ルワンダ・フラン(RWF)である。3階建ての研修センターでは、每期約60名の実習生及び年間300名以上の教員を受け入れる。(6日)

### ・製造業セクターに関する覚書

東アフリカ・ビジネス・カウンシル及び東アフリカ製造業ビジネスメンバー団体は、域内の製造業セクターが直面している問題に対応するための覚書に署名し、ルワンダ、ウガンダ、ブルンジ、ケニア及びタンザニアは、域内の競争力を高めるために、互いに協力し合うことで同意した。(8日)

### ・2015/16年度国家予算案

11日、ガテテ財務・経済計画大臣は国会において、2015/16年度の国家予算は、国内歳入の動員を強化し、外国援助の依存を減らす旨、また、同予算は、社会・経済転換のためのインフラ開発を優先分野としており、発電、工業地域開発、国民への安全な水供給のために十分な予算が配分される旨述べた。2015/16年度の国家予算は、1兆7,680億RWFであり、歳入全体の66%にあたる1兆1,742億RWFは国内歳入とする計画である。他方、外国援助は歳入全体の34%に当たる5,940億RWFである。(12日)

### ・インフレ率(2015年5月)

ルワンダ国家統計局(NISR)は、5月のインフレ率は前年比2.2%増であった旨

発表した。インフレの要因は、食料品及び非アルコール飲料が3.8%増加したためである。(12日)

#### ・対ドイツ関係

12日、ルワンダ政府及びドイツ政府は、ルワンダの分権化及びグッド・ガバナンスを3か年に亘り支援する総額6,950万ユーロの2件の二国間支援協定に署名した。同協定は、資金協力(3,800万ユーロ)及び技術協力(3,150万ユーロ)からなる。資金協力は、分権化及びグッド・ガバナンス、技術教育・職業訓練(TVET)を通じた経済開発及び雇用創出に焦点を当てている。また、公共財政管理の改革も支援する。技術協力は、分権化及びグッド・ガバナンス、貧困削減に関する調査のマクロ経済面の助言及び専門家派遣等に用いられる。ドイツは、ガバナンス及び分権化セクター・ワーキング・グループの共同議長を務めている。(13日)

#### ・GDP成長率

18日に発表されたNISRのレポートによると、2015年第一四半期のGDP成長率は7.6%(前年同時期は7%)であった。サービス・セクターがGDPの48%を占め、農業セクターが同31%、工業セクターが同15%を占める。ルワンダ政府及びIMFは、2015年の経済成長率を6.5%と見込んでいる。(19日)

#### ・対米国関係

18日、米政府のヤング・アフリカン・リーダーシップ・イニシアティブ(YALI)に選ばれた6人のルワンダ人が米国に向けて出発した。当地米国大使館のステートメントによると、6週間米国に滞在し、リーダーシップ・スキルや、他のアフリカの若者とのネットワーク構築を目的にしている。同イニシアティブは、2010年にオバマ大統領によって開始され、今までに約800人が参加しており、ルワンダからも昨年6人が参加している。(22日)

#### ・中国企業

ATMのリーシング会社であるRSwitch社と中国資本企業Union Pay International社はパートナーシップ契約に署名した。同契約は、Union Payカード所有者は、RSwitchのATMからお金を引き出すことが出来るようになり、それにより、ビジネス取引コストの削減及び金融業界の競争力強化が見込まれる。(23日)

#### ・レポ・レート

23日、ルワンダ中央銀行(BNR)は、レポ・レート6.5%を維持することを発表した。(24日)

#### ・対ドイツ関係

22日、ドイツにてルワンダ政府及びドイツ企業のReMAは、南部県IPRCに対して職業訓練のトレーニングを提供する新パートナーシップ契約を結んだ。(25日)

#### ・アカゲラ国立公園、ライオン導入

ルワンダ開発庁（RDB）のステートメントによると、南アフリカからライオン7匹（うち雌5匹）がアカゲラ国立公園に導入される。29日にルワンダに到着し、伝染病予防のモニタリングをするため最低14日間の隔離期間を経て、同公園内の1,000平方メートルの囲いの中に放たれる。（27日）

#### ・インフォーマルセクター

国連アフリカ経済委員会（UNECA）のレポートによると、ルワンダはアフリカ9ヶ国（ケニア、タンザニア、ウガンダ、エジプト、リビア、マダガスカル、モーリシャス、南ア、ルワンダ）中2番目にインフォーマルセクターの雇用が多いことが分かった。ケニアの77.9%に次いで、ルワンダは73.4%の雇用がインフォーマルであり、次にウガンダが59.2%、他方、タンザニアは8.5%のみである。（27日）

#### ・対米関係

29日、米国国際開発庁（USAID）は、貧困層5万世帯の貧困からの脱却を5年間に亘り支援する3,700万米ドルのプロジェクトを開始する旨発表した。右資金は「Twiubake（注：「再建しよう」との意味）」と題されたプロジェクトの実施に用いられ、少なくとも25万人が様々な方法で裨益する。右プロジェクトは、グローバル・コミュニティーズ（注：米国を拠点とするNGO）が実施し、脆弱層の保護及びそれらの人々の生計向上を可能とする保健、社会及び教育サービスとの連結を強化する。裨益者には、HIV罹患者、孤児及び脆弱な子どもたち、女性又は寡婦が家長である世帯を中心とした貧困世帯が含まれる。（30日）

（了）